

講義名	研究演習Ⅰ（経・人）				
講義コード	45209	授業形態		開講期・曜日・時限	後期 木曜日 5時限
担当教員	上瀧 真生			ナンバリング・コード	

学部・学科	演習分野
経済学部・経済学科	上瀬真生ゼミナール(社会保障論)

類別說明	
1	第一類：基本資料
2	第二類：學術背景
3	第三類：研究動機
4	第四類：研究計畫
5	第五類：研究經費
6	第六類：研究設備
7	第七類：研究人員
8	第八類：研究進度
9	第九類：研究報告
10	第十類：其他事項

(1) テーマは「キャリアの展開と社会保障」
 という言葉は、最近では職業生活の意味する言葉として使われることがない。けれども、ここでは広く人生の展開を意味するものとして考えたい。その焦点は、このテーマにおけるキャリアの展開を支える、さらにはそれを支えるべき社会政策のあり方を考えることである。この二つの中心におきながら、現代日本社会におけるキャリアの展開を考えたとき、さらに重要な課題がある。それは、キャリアの展開がもたらすであろう近未来社会にどのような変化が生じているのか、それによって生じるであろう問題点や課題について検討することである。また、キャリアの展開がもたらすであろう近未来社会にどのような変化が生じているのか、それによって生じるであろう問題点や課題について検討することである。
 この二つの中心におきながら、現代日本社会におけるキャリアの展開を考えたとき、さらに重要な課題がある。それは、キャリアの展開がもたらすであろう近未来社会にどのような変化が生じているのか、それによって生じるであろう問題点や課題について検討することである。

(2) ゼミナールのステップ

① 研究演習Ⅰ（2回生後期）
テキストの検討を中心にして、現代日本のキャリア展開についての見通し、さらには考えるべき問題や考える方法について学ぶ。同時に、資料の調査や発表、議論の場を通して、課題のための基本的な技術を身につける。2回生終了時にレポートを作成し、半年間で学んだことを振り返る。

② 研究演習Ⅱ（3回生）
前期はキャリアの検討を続けるとともに、流通科学大学の先輩や身近な人生の先輩のキャリア展開についてインタビュー調査し、その結果をもとに現代日本におけるキャリア展開の実態とそれに対する社会保障のありかについて考える。また、これまでの学習をふまえて、各自、卒業研究のテーマを決定する。各グループで話し合い、進捗について研究を進め、その進捗状況を報告する。3回生終了時に卒業研究の第一次草稿を提出する。

③ 卒業研究（4回生）
3回生時の第一次草稿をもとに卒業研究を仕上げる。進路相談も実施。

(3) テキスト
ゼミ生が確定した後に決定する。現在の3回生が検討したのは以下の文献。
中西新太郎監修『フツを生きぬく進路術』17歳版 青木書店、2005年
中西新太郎監修『フツをつくる仕事・生活術』28歳版 青木書店、2007年

主な卒業論文のタイトル

『聖地巡礼』が起こす経済効果」
「学生アルバイトの実態 流通科学大学と全国調査の比較」
「介護職の現状と今後について」
「児童虐待について」
「過職とは何か」
「睡眠について」
「ゲームが見せる社会現象と影響力」
「外国人留学生の就職率」上げのために」
「ジェンダー問題と共に歩む男性像」
「ユニバーバーについて」
「コロナ禍のGOTOトラベルによる経済への影響」
「エリートビジネスマンはなぜ筋トレをしている人が多いか」
「子どもの貧困の現状」
「一度と、このような可哀想なことが起こらないように。」

教員よりの要望

◆毎日、新聞を読むこと。世の中の動きを知っていることは、これからの人生選択にとって大切な土台。10分でもいいから毎日必ず新聞の一面に目を通してほしい。

◆できるだけ本を読むこと。本は、自分の直接の経験をはるかに越えて経験の幅を広げる。本を読むことに時間を使ってほしい。

◆自分の意見をはっきり述べること。これからの世の中、自分の意見を述べなければ生きていけない。他人の意見をよく聞き、同時に自分の意見をきちんと述べる人間をめざしてほしい。

◆活動的であること。積極的、活動的、つまり元気いなることにチャレンジしてほしい。学生時代は短い。充実した学生生活をおくってほしい。

◆卒業研究をおこなうこと。卒業研究は学生時代最大の事業。これを行わないと大学時代は終えられない。

選考方法	
------	--

基本的に「来る者拒まず」。ただし、「ゼミ運営の主体は学生だ」という意識をもって積極的にゼミで自分の力を発揮しようとする人に来てほしい。選考が必要な場合（志望者が16名程度を超える場合）は個別ガイダンスでの面接による。

評価方法	
------	--

研究演習Ⅰ： 日常のゼミ活動とかんたんなレポートで評価する。
研究演習Ⅱ： 日常のゼミ活動と卒業論文をみずえた3年次レポートで評価する。
卒業研究： 卒業論文で評価する。

教員英字氏名	研究室
Kotaki Masao	研究棟Ⅱ 2613研究室

最終学歴

京都大学大学院経済学研究科博士後期課程学修退学

学位

経済学修士

主な研究活動・社会活動・研究業績

1990年代後半以降の日本経済の変化の中で企業がどのような雇用・人事戦略を展開したか、そのなかで働く人々の労働と生活がどのように変化したか、を中心に研究している。その成果は以下のとおり。

「ウィズCOVID-19の経済」「唯物論と現代」2021年10月
「資本のもちと働く」「経済」2015年5月
「資本主義のしくみ」「資本論」を基礎に現代資本主義を考へる。京都労働者学習協議会。2013年10月
「経済・研究會・資金論の現代的展開を考へる」(上)(下)「経済」2007年8月・10月
「総額入付費管理と労働者生活」現代の資金と労働者の代代的再生産へ「経済」2005年2月
「資金論の変化と社会的な生活入付金の課題」流通科学大学論議—経済・経営情報篇第12巻第3号、2004年3月

趣味・特技

①映画鑑賞。京都の小さな映画館でマイナーな映画を見るのが好き。2020〜22年度は大学における新しい生活様式の対応に追われ、なかなか映画を見ることができなかった。その間、Amazon Prime Video や NHK オンデマンドで古い映画やドラマを鑑賞して、わずかながら目得た。

②歌うこと。通動速上や帰宅途中、歌いながら歩いている。ちょっとあやしい人と思われているかもしれない。

③お酒。夜のおいしいお酒は大切なお友だち。

所属

蔡明 蔡松

所属学会

社会政策学会、経済理論学会

專門分野

日本の社会保障、生活問題、労働問題

担当科目	
------	--

教養特講Ⅰ（働くことを考える）、経済学入門、社会保障論、日本経済論

備考

ゼミ生からのメッセージ
 ◆上瀬先生は、他の人にコミュニケーションを取る事が苦手だと思っている人や、前でも発表したり発言したりすることが苦手な人にオススメで、ゼミの内容は、さほど難しくありません。(2022年度研究演習Ⅰゼミ生)

◆上瀬先生は現代日本のキャリア層について理解を深め、そこでどういった問題があるのかを学ぶ活動を行っている。その過程で自分から発表するという機会が多いため、発表や文章を分りやすくまとめるのが得意じゃない人や向いていないと思う。また、グループワークをメインにしていたため、他人と力を合わせることも重要なこと。苦手な人からしたら少し怖い事だが、ここ上瀬ゼミは机振るものでもないかもしれない。(2022年度研究演習Ⅰゼミ生)

◆先生は自ら新聞を読み現代の世話を詳しく知り、それを自分の仲間たちと共有しながら様々な意見を持って、自分の考えを固めることができる。ゼミ生は新聞のこともっと知りたいなと述べています。(2022年度研究演習Ⅰゼミ生)

実務経験の有無及び活用

なし。